

# 巡回バス運行改善の提言書

－巡回バスの見直しに向けて－

平成25年4月

愛西市巡回バス運行検討委員会

平成25年4月15日

愛西市長 八木忠男 様

巡回バス運行検討委員会  
委員長 加藤正夫

### 巡回バス運行改善の提言書

本委員会は平成24年4月1日付けで全部改正された「巡回バス運行検討委員会設置要綱」により従前の委員構成を変更して任命され、一年間の期間をかけ、述べ5回にわたり委員会を開催し、市民の生活範囲、巡回バスに対する市民の様々な意見等をワークショップにより集約するとともに、愛西市の現状、バスの利用状況等を分析し、様々な視点から検討してまいりました。

この度、その検討結果をまとめましたので、要綱第2条の規定に基づき本委員会の検討結果を、提言として提出いたします。

巡回バス事業は、交通空白地域にお住まいの市民生活に直結する重要な課題であります。貴職におかれましては、この提言を可能な限り反映した事業の改善を進め、市民サービスの一層の向上に向けて取り組まれることを強く要望いたします。

## 提言書

### 1. 提言に至った経緯

愛西市の巡回バスは、平成19年9月1日に大幅な改正を行い、合併前から佐屋・佐織地区で運行していたのと同水準の内容で、立田・八開地区でも運行を開始しており、現在に至っています。

市内外の企業従業員や自営業の方の交通手段は全体として自動車依存が高くなっていますが、移動手段を持たない方に対するサービスとして地域巡回バスを運行しているものの、大幅な改正から5年経過し、社会情勢とともに市民の意識やニーズも変化してきました。

そこで、地域公共交通を取り巻く状況の変化を踏まえ、今後の愛西市における地域公共交通の活性化に向けた効果的な施策を進めるため、必要となる調査及び検討資料の作成等を実施しました。

その中では、現状のバス利用状況を分析するだけでなく、市民の生の声を聞くためのワークショップを開催し、日常生活行動範囲やバスに対するニーズや意見等について様々な意見交換をしました。

### 運行検討委員会

開催回数	日時	場所	主なテーマ
第1回	平成24年6月21日(木)	愛西市役所2階会議室	調査企画の説明・検討
第2回	平成24年8月31日(金)	愛西市役所2階会議室	ワークショップの準備
第3回	平成25年2月15日(金)	愛西市文化会館3階会議室	愛西市の現状、ワークショップの結果検討
第4回	平成25年3月1日(金)	愛西市文化会館3階会議室	他市町の事例、バスの利用状況分析・検討
第5回	平成25年3月29日(金)	愛西市文化会館3階会議室	市長への提言まとめ

## 2. 提言内容

### 提言1 バス利用促進のため継続的な周知啓発活動が必要

市民に対しての周知啓発事業・活動として、行政だけでなく各委員や老人クラブなどを含む地域の様々な方が積極的に関わり、推進していく必要があります。

市民にとっては身近な存在として感じていただくかが重要なため、周知啓発活動の実施を検討して頂きたい。

この周知啓発活動については、長期的で継続的な活動が必要です。

現在、市で実施されている広報やホームページでの広報以外の方法として、例えば、観光ルートの創設、親子バスふれあい活動、子ども会や学校等のバスツアーなどのイベントや、バス命名（愛称募集）、ラッピングバス、有識者による講演会等が考えられます。

早期に実現可能なものから検討し、実施すべきと考えます。

### 提言2：改善の検討

今後の愛西市の巡回バスは、現状維持ではなく、利用実態等に即して改善の検討を今後行っていく必要があると考えます。

しかし、改善ありきの考え方ではなく、現状の利用状況やニーズを鑑みたものでなくてはなりません。

改善を検討する内容としては、以下に記載しますが、早期に実現可能なものから検討し、実施すべきと考えます。

## 提言 2-1 運行経路の改善

- ・ 他市町への乗り入れ
- ・ 他市町の主要施設への乗り入れ
- ・ 愛西市内への乗り入れの可能性検討
- ・ 他市町への乗り入れによる経路見直し（巡回方式・基幹方式等）

（検討内容）

下記にあげる拠点施設を経由するような経路を検討すべきと考えます。

実現性の高い施設については、交渉し乗り入れ可能な体制を整え、早期に実現に向けて交渉すべきと考えます。

他市町への乗り入れが実現した場合には、運行方式及び経路も見直す必要があります。その中で現行の巡回方式がよいのか、基幹方式がよいのか等他市町の事例を調査研究しながら、愛西市にあった方式を検討すべきと考えます。

### 【乗り入れ自治体】

- ・ 津島市
- ・ 弥富市
- ・ 稲沢市

### 【乗り入れ施設】

- ・ 名鉄津島駅、近鉄弥富駅
- ・ ヨシツヤ本店、イオンタウン弥富、ヨシツヤ北テラス店・平和店等
- ・ 津島市民病院、海南病院、尾西病院等

## 提言 2-2 バス停の改善

- ・ 地域毎に利用頻度に差がみられるため、バス停の統廃合を検討すべきと考えます。また、乗降に際し、危険な場所があるため、再度地域単位で見直しを検

討すべきと考えます。

(検討内容)

現在の利用状況より年間利用率 0%~20%利用率の低いバス停を統廃合し、新しいルートの検討をすべきと考えます。

半径 500 メートル圏内で重複するバス停は統廃合を検討すべきと考えます。

利用率の低い地区には代替輸送についても検討すべきと考えます。

危険箇所がある地域については、バス停の変更等を検討すべきと考えます。

### 提言 2-3 運行時間の改善

・運行時間の拡大を検討すべきと考えます。

・ルートとバス停の数に運行時間が大きく影響しますので、ルートとバス停の数を決めてから、時間配分を考えていくことが必要だと考えます。

・さらに誰をターゲットとするのか、どんな目的で運行するのか、どこを目的地とするのか等を十分に勘案し、運行日や運行時間を検討すべきと考えます。

(検討内容)

運行時間の見直しを検討すべきと考えます。ただし、乗り入れ先の営業時間に合わせた運行時間を検討する必要があると考えます。

また、日曜日にイベントや観光目的の運行を行い、月曜日を休むといった目的にあった運行日の設定についても検討すべきと考えます。

### 提言 2-4 有料化についての検討

・受益者負担によるバス運行は、市の財政状況を鑑みても有料化について検討が必要と考えます。

・現在、福祉センターを目的にバス利用している方に対しては、公共交通のバ

スと福祉目的のバスとの運行目的の分割等を検討し、対応する必要があると考えます。

(検討内容)

料金形態は、市内・市外を問わず均一料金、市外のみ有料がよいか。

料金は、いくらが妥当か。金額によって利用者減の可能性。

有料化によるメリット・デメリット

現行の運行形態ではなく、デマンド式等で有料化の可能性。

市民のニーズがどこまであるのか。

運行目的によるバスの分割の可能性は。

提言 2-5 改善のために

・現在実施している検討委員会では、専門的な知識を持った人材がいないため、専門的知識を持った有識者を検討委員会に招聘することを検討すべきと考えます。

・検討委員会においては、今後テーマ別、地域別等での話し合いが必要な場合は、小委員会（グループワーク）を実施し、効率的な審議のできる体制を検討すべきと考えます。

さらに、若年層の世代をいれるなどして幅広い意見が入るよう委員の増員等を検討すべきと考えます。